



佐久間町内の大千瀬川での
「ヤナ漁」と「アユ」

(撮影者 道林広報委員)

CALS/ECC研修会に参加して

株式会社 神田組 清水 充

企画青年委員会は去る七月十六日、研修事業の一環として東京都下水道局と横須賀市役所を訪問した。午前中に都庁別館にて最もCALSが進んでいるといわれている下水道局の武見敏靖氏に電子納品について、現在行われているデジタルカメラによる現場写真の納品、工事関係書類のバーレス化などを学んだ。午後からは全国的に注目を集めている横須賀市の入札制度を財政部入札契約担当の佐藤清彦総括主幹と企画調整部情報政策課の前田幸一郎主任から横須賀方式導入までの経緯と現在の状況等について説明を受けた。

東京都下水道局のCALS

東京都の財政再建プランの中で平成十二年度から平成十五年までの四年間で五千人の人員削減を計画し既にほぼ達成され、下水道局でも毎年二百人ほどの退職者を出しており、補充人員はゼロに近い状態だそうである。そこで業務の効率化が求められ、都下水道局では、独自の方法で先駆的にCALSを導入し、単に「国の方針に従ってCALSを導入する」という姿勢ではなく、「人員不足への対応という危機意識」がCALSを押し進めたそうです。電子化をはじめるにあたり、システム化せずに、すぐに出来ることから

始め、平成十年には三件の工事で工事記録写真や工事日報の提出、電子メールでの交換を実施した。平成十一年には二十七件、平成十二年には二百四十六件まで試行工事を拡大し、次のような効果が実証されたそうです。

一、業務の効率化
電子メールを利用することにより事務所内で状況確認が出来現場に行く回数が減り、他の業務を進めることが出来た。

二、建設コストの削減
工事記録写真現像費、プリント代の削減、書類等の輸送、運搬コストの削減等

三、品質の向上
電子化することにより、情報の伝達速度が速くなり、

転記ミスや書き間違いが軽減され品質が向上した。

四、バーレス化による省スペース

提出物を電子化することで、その保管スペース（書庫等）を軽減することが出来た。

また、紙と比べ劣化が少なく長期保存が可能になった。

現在、都の下水道局では、建設事業のほとんどの工事でデジタル写真の提出が行われていて一枚のCDに数千枚もの写真が入ることから監督員、施工者から好評を得ているとのこと、また、都建設局では今年度内に「東京都CALS/ECCアクションプログラム」を策定し、電子化に向けた具体的なスケジュールを明らかにするそうです。

横須賀式電子入札

入札改革の先進地として全国的に注目されている横須賀市の入札制度について市の財政部契約課の佐藤主幹と前田主任より説明を聞いてまいりました。七月までに全国から

四百余りの自治体が視察に訪れているそうで業者側では我々が初めてとのことでした。入札制度改革は平成十年の指名権の放棄・事業者ランクの廃止から始まっており、以後平成十一年の郵便入札、そして平成十三年からの電子入札と移

行してきており突然始めたものではないとのこと。談合の出来ない仕組みづくり、入札の透明性を高めようと検討した結果が一般競争入札に行き着いた。そして、十三年九月から電子入札の導入。電子入札導入の目的は第一に「入札業務の効率化」とのこと、契約課ではかなりの省力化がはかられたようです。既に内容についてはご存知の方が多いと思いますが、入札制度改革の取り組みとして次の五つをあげております。

入札制度改革の取り組み（五本の柱）

一、談合のしにくい仕組みづくり

・指名揭示及び現場説明会の廃止

・条件付き一般競争入札の導入

・談合情報があった場合の対応の強化

・高値安定を防ぐ仕組みづくり

・入札回数を原則として一回に制限

・不落随契の見直し（再入札を原則とする）

・希望価格制度の導入

・透明性・公正性を高める仕組みづくり

・経営事項審査に基づく総合評価（客観点）を基準とした発注

・インターネットを使用し、入札結果もインターネットで公表

・不正行為防止策の徹底（価格の事前公表、予定価格決定に「くじ」を採用等）

・工事品質を確保する仕組みづくり

・優遇措置及び罰則を強化した工事成績評価制度の導入

・検査体制の整備・強化

・最低制限価格の設定

五、入札事務の省力化

・インターネット等の活用による契約課窓口事務の省力化

・郵便による入札の導入等による入札事務の省力化（平成十三年からは電子入札）

・契約管理システムの活用による各種入札事務の省力化

入札制度の概要

入札方式：条件付き一般競争入札

入札方法：電子入札

入札回数：一回

入札参加業者数：入札参加条件を満たしていれば参加できる。（経営審査を受けていなければほとんど参加できる。）

予定価格の取扱い：（事前公表）市内業者への発注は、設計金額の98.00%～99.99%の間で入札場所において「くじ」で決定される。

（非公表）ゼネコン、プラントメーカー等へ

の発注は、希望価格を事前公表

最低制限価格の取扱い：（事前公表）「くじ」で決定した予定価格の85%

（非公表）設計価格に一定率を乗じて各工種・工事別に設定。1件五千万円以上は最低制限価格を設定しない。

の発注は、希望価格を事前公表

最低制限価格の取扱い：（事前公表）「くじ」で決定した予定価格の85%

（非公表）設計価格に一定率を乗じて各工種・工事別に設定。1件五千万円以上は最低制限価格を設定しない。

工事発注の揭示・参加申請書の提出・入札参加者の公表・入札結果の揭示はインターネット上で行う。

さて、ここで横須賀式の特徴のひとつ「くじ引き」がでてきますがその採用の理由として

①公正な入札手続の確保 ②立会人（三人）の選定に対する入札参加者及び発注者の恣意性の排除 ③価格を

探ろうとする行為や漏洩防止など不正行為の排除の三つが上がっております。我々業者側としては最後のところが「くじ」で決定するのは納得いかないところではあります。

市役所側はこの制度に対し自信たっぷりです。「落札率が八五%前後まで下がって四十二億（十二年度）の差金が出た」

「談合がなくなった」業界にも良い制度で「誰でも参加できる」ので業者は喜んでいて「この見解でした。この説明を聞きにきた全国の自治体の方々には「これは素晴らしい制度だ」と思ってもらいたいです。」

新聞・テレビなどでは行政側の効果が上がった点を強調して報道されていますが、地元業界の現状は、経費の削減、人件費の削減等ぎりぎりのところで踏ん張っているようです。

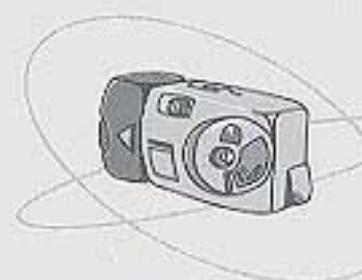
他人ごとではなく我々の自治体でもこの制度が導入されるかもしれません。

七月十七日の建通新聞から6回連載された「これが横須賀

信たつぷりで、

方式だ！」を読んで比較して見てください。

※各ホームページに詳しい内容が載っていますので覗いてみてください。



東京都下水道局のCALS

<http://kenplatz.nikkeibp.co.jp/free/gesui/main.shtml>

横須賀財政部契約課

<http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/keiyaku>

横須賀建設二世会

<http://www.y-kniseikai.gr.jp/index2.htm>



『自分のことは、
自分では意外と
わからないもの。』

「い背負っているのですか」と質問しましたが青年は、疲労困憊で話す気力がないうらしく無言のままです。そして、再び尋ねると「そんなこと聞いて何になるんですか」と答えたのでした。

Aさんは、「重さぐらい答えてくれればいいのに。無愛想だな」と、ムッとしていました。

しかし、しばらくして「自分も人に話しかけられて「疲れているんだ、静かにしてくれ」って言うてくるじゃないか」と気付き、愕然としたのです。

「人の振り見て我が振り直せ」と言いますが、他人の行いを良き教材として、人に学びながら人生を歩んでいきましょう。

最近のキーワード

『市町村合併』

人口七〇万人全国で五番目となる政令都市静岡市が誕生します。県都静岡市と、お隣清水市が合併することになり、県内では一気に市町村合併の動きが加速しています。

ここ西部地区では、浜松市、浜北市、天竜市、湖西市を中心とする四市九町一村の浜名湖市構想が実現へ向け動き出しています。現在の人口は合わせて八四万七千名、政令指定都市へのハードルとなる七〇万人を大きくオーバーし、県

内一の政令都市になります。また、掛川市、袋井市などを中心とする「エコバ市」構想も動き出し、市町村合併の有効期限である十七年三月末までをタイムリミットに各市町村の模索が続けられる見込みです。

市町村合併に伴い、行政機関の再編成も進み、建設業界にとつての関心は、建設工事にあたる発注業務、工事管理などどう変わるか、です。先行する静岡市での展開が注目されています。

リレー「安全パト」④

私の気づいたこと

安全指導員 片桐重文

私が天竜支部の安全指導員となりましては、十年以上が過ぎようとしています。現在活動をさせて頂き私にとってはすべてが勉強の場となっています。毎月一回のベースでパトロールが実施されており、その年内六回を、労基署、各発注機関（土木・農林・市町村）との合同パトロールが実施されます。

各業者の方々に合同パトロールについて、私が気づいたことを少し報告したいと思っています。パトロール当日全員が集合後、安全指導

員の方々によってパトロールの現場を決めます。午前中に三箇所・午後三箇所を目標にしてコースが決定します。

ここで現場で労基署が指摘する注意点をいくつかあげてみたいと思います。

一、足場に手すりがない。
二、足場の積載表示がされていない。
三、脚立・はしご等の固定が不十分である。

四、昇降設備・仮設通路が設置されていない。
五、重機の自主特定検査済書の貼付がされていない。

などいくつかの注意点が指摘されます。

ひとつまちがえれば重大災害

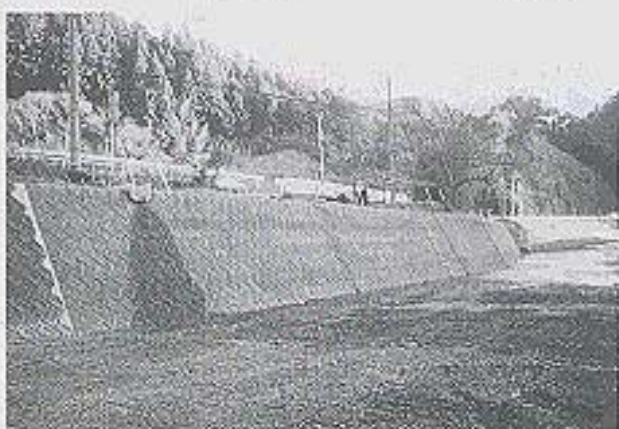
がおこりかねません。そして、労働災害はいつ何時降りかかって来るか解りません。家族への補償問題・指名停止処分など企業の存続にもかかわる問題になりかねません。企業等が、安全第一を考えた家族の方々が安心して送り出せる作業場であるために作業員一人ひとりが安全な作業ができるようにこれからも各業者が、つね日頃の安全対策を考えた現場作りに取り組んで頂きたいと思っています。

今後も、一層厳しく指導が行なわれると思いますが、各社の皆様に御協力をお願い致します。よりよい安全な施工場所となりますように何卒御協力をお願いします。

お願い致します。

建設ギャラリー

工事名	平成13年度 不動川河川災害復旧工事
工事箇所	周智郡春野町堀之内字平尾地先
工事期	平成13年12月22日～平成14年3月15日
発注者	天竜土木事務所
施工者	(株)森下工業
《工事概要》	施工延長 環境保全型ブロック積工 根固め工
	L=63.0m 352㎡ 22個



コメント

本工事は春建（協）が開発した表面が炭入りで、ポーラス形状の間知ブロック（炭れブロック）を使用した河川護岸、災害復旧工事です。工期内に無事完了、出来栄も満足行くものに仕上がりました。炭れブロックですが、雨の日には紫色になるのには驚きました。

支え合う 働くみんなの 労働保険



◆十月は「労働保険適用促進月間」です。

厚生労働省では、「支え合う 働くみんなの 労働保険」を合言葉に、全国

未加入事業所の
解消は、労働保険
制度の健全な運営、
費用負担の公平等
からも、極めて重
要な課題です。

《労働保険とは》

労働保険と雇用
保険とを総称した
もので、農林水産
業の一部を除き労
働者を雇用してい
れば、その人数や
業種に関係なく加
入が義務付けられ
ている制度です。

〈労災保険とは〉

労働者が業務上災害又は通
勤災害を受けたときに、被災
労働者及び遺族の方に対して
災害補償を行なうほか、労働
者福祉への援助を行う制度で
す。

※労災保険の費用徴収制度について

事業主が故意又は重大な過失により、労災保険未加入中に労働災害が生じ、労災保険給付を行った場合には、週及して労働保険料を徴収するほか労災保険給付に要した費用の一部を徴収することになっています。

＜雇用保険とは＞

被保険者が失業した場合に必要な給付金を支給して生活の安定と再就職の促進を図るほか、事業主への必要な援助や失業の予防、雇用構造の改善などを図る制度です。

「詳細についてのお問合せは」

静岡労働局労働保険徴収課
TEL 054-254-6316

又は、最寄りの労働基準監督署・ハローワーク

除草作業を
行いました。

8月は、道路愛護月間です。当天竜建設業協会も、道路愛護月間にあわせて「地域の道路清掃」は「地域の業者」での精神により五十五の会員・賛助会員からの九〇名が参加して実施しました。8月29日は早朝から1日かけて管内の国道、県道の奉仕活動を天竜・龍山・佐久間・水窪・春野各地区に分かれて行いました。

天竜建設業協会には、天竜土木事務所の野沢維持調査課長も出席し、天竜・龍山地区の出発式を行いました。出発式では秋山会長、野沢課長の挨拶に引き続き、地区世話人の柏崎さんからの地区割り発表がありそれぞれの地区に分かれて奉仕作業を行いました。

当日は天候にも恵まれ、事故もなく予定どおり午後5時前には作業を終了しました。

事務局だより

◎七月からの動き

七月

- ・一日 役員と土木事務所
幹部職員と懇談
- ・二日 安全祈願祭…秋葉
神社にて

八月

- | | |
|-----|-------------|
| ・一日 | 合同バトロール |
| ・八日 | 天竜支部道路利用者会議 |

九月

- ・十七日 バソ講習最終日
- ・二〇日 広報編集委員会
- ・二二日 適正取引講習会
〔可美運動公園〕
- ・二三日 社会保険書類審査
- ・二九日 除草ボランティア
奉仕作業：九〇名
参加
- ・三〇日 建災防見学会
〔静岡市内〕
- ・三〇日 会員アンケートの
集計結果を提出

十月

(今後の予定)

- ・三日 安全パトロール
・十五日 会報紙 七四号発行
・二十一日 産業人チャリティ
ーゴルフに有志参加
(引佐町)

